

一 肩関節周囲炎・肩関節拘縮 一

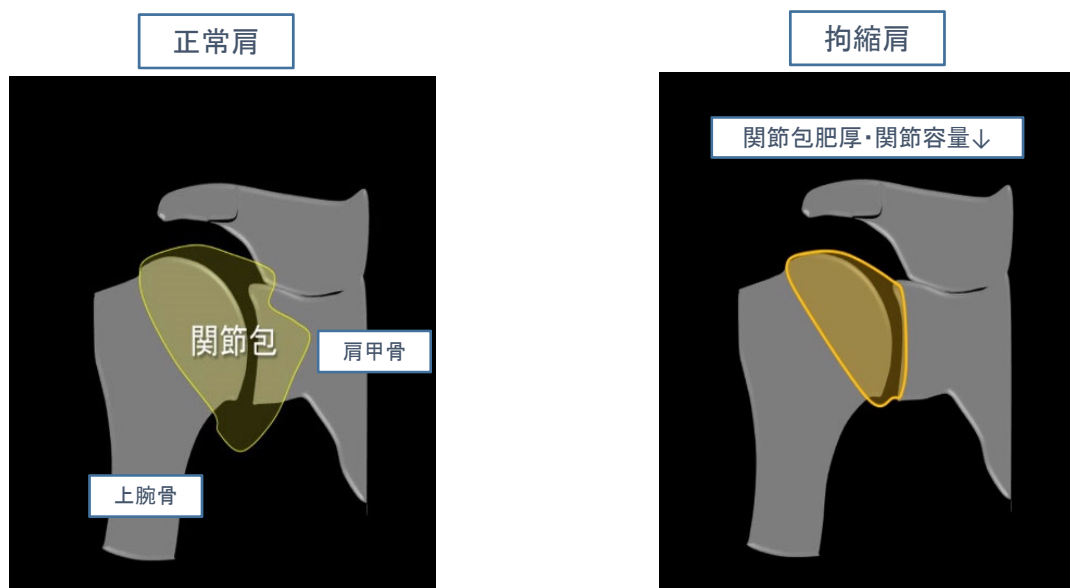
肩関節周囲炎とは肩関節の痛みと動きの制限を生じるが、特別な画像所見は呈していない症候群のことです。一般的に五十肩と呼ばれています。

放置して1.2年すれば自然に治るといわれていますが、実際は完治する方は40%程度であり、その他の方には後遺症が残っています。

また肩関節周囲炎が悪化してさらに動きの制限を生じ、拘縮肩・凍結肩といわれる状態になってしまう場合があります。

・注意！！！！

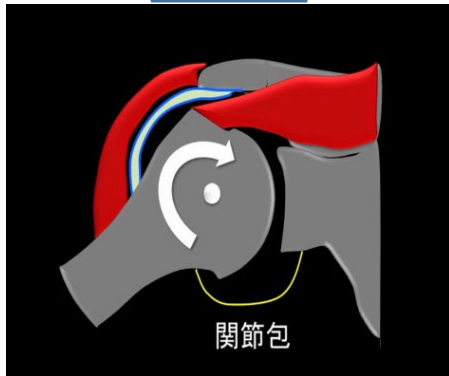
五十肩の場合は自分ではもちろん、他の方に持ってもらっても手を挙げることはできません。自分では挙げられないが、他の方に持ってもらえば挙がる場合は、五十肩より腱板断裂の可能性があります。レントゲンだけでなくMRIにて確認することをおすすめします。



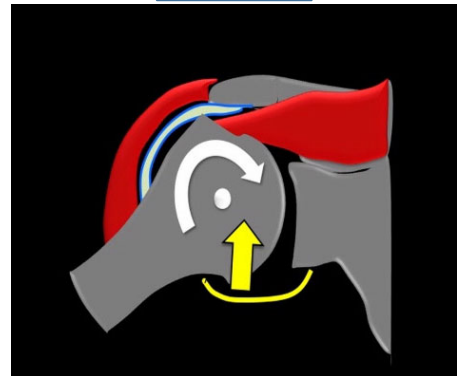
関節は関節包という袋に覆われています。通常では袋の大きさには余裕があり、袋の中で上腕骨が自由に動くことができます。

しかし拘縮肩となってしまうと袋が小さくなり、また硬くなってしまいます。すると上腕骨は動きを制限されてしまいます。

正常肩



拘縮肩



関節の袋が張りこれ以上手が挙がらない

・治療法

治療としてはリハビリテーションがメインとなります。内服薬・関節内注射は痛みを軽減させてリハビリを施行しやすくするための手段でしかありません。地道にリハビリを続けることが症状軽快のための唯一の方法です。

しかしリハビリでも症状が改善しない場合は手術を考える必要があります。小さく・硬くなった関節包を切り、袋を大きくする方法です。皮膚を大きく切開して行う手術、近年は関節鏡で切開する手術がおこなわれています。

さらに保存的加療と手術加療の間の位置づけとして、サイレントマニピュレーションが施行されてきています。

・サイレントマニピュレーション

首の神経の近くに注射をする(ブロック注射)ことで肩周囲に麻酔をかけ、痛みを除去した状態で上肢を動かしていくことによって、関節包を破り拘縮を解除する方法です。日帰り手術でも対応しています。ただし手技後の痛みの問題、またリハビリが重要であるため、数日から1週間程度入院しての治療をおすすめしています。

